長崎県立五島高等学校　　第５号　令和３年　８月３１日 発行

あこう風のたより

8月

発行責任者
校長　初村　一郎

【校長室より】

『体育祭・五高祭を前に』

新型コロナ・デルタ株の猛威で、これまでにない教育活動の制限を余儀なくされています。体育祭・五高祭については、大変心苦しいのですが、時期を見合わせ、規模を大幅に縮小し、無観客にて、何とか実施できればと検討を重ねているところです。生徒・保護者・地域の皆さんには、ご心配をおかけしておりますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いします。

さて、１月１１日「成人の日」。今年は、コロナ禍で成人式が延期や中止になる中、この日の長崎新聞の１面に心を打たれ、何度も読み返しました。

ダウン症の史子さん（２０）は、家族に愛され、地域に支えられ、人生の門出を迎えることに。母、夏代さん（５９）は感慨深げに「この子のおかげでいろんな縁をもらった。本当にうれしい」と。

実は私の娘も障害があって同じような境遇を辿ってきたこともあり、目に留まってしまったのですが、体育祭・五高祭前に相応しい内容ですので、ぜひ皆さんに読んでもらいたいと思いスクラップしていました。

夏代さんは、生まれたばかりの娘の顔を見て２人の兄とは「違う」と感じた。ダウン症かもしれない。不安に押しつぶされ、授乳室に行くのさえつらかった。世間からどんな風に見られるのだろうか、家族に迷惑をかけてしまう、私のせい、きっと夢だー。

１カ月後の検診で告知を受けた。娘への愛情は薄れはしない。でも素直に障害を受け入れられなかった。泣き崩れたその日の夜。夫の言葉に救われた。「うちに天使の生まれたとさ。大丈夫」。将来を悲観して泣くのは、この日を最後にやめた。

娘への冷たい視線や心無い言葉に家族で傷ついた経験もある。そんなときはダウン症の家族らでつくる「バンビの会」に参加。悲しみや不安を吐き出すことで心を保った。史子さんは２歳で歩き、言葉を発したのは３歳。成長はゆっくりだけれども、できないことを嘆くのではなく、できたことを喜んだ。史子さんの笑顔は周りを変えていった。

地域にも支えられた。小学校は兄たちが通った市立愛宕小に入学。特別支援学級を新設してもらい、校長自らが教室の壁を明るく塗り直して歓迎してくれた。

夏代さんには忘れられないエピソードがある。５年生の時の運動会。走るのが苦手な史子さんはそれまで、学級対抗リレーに参加してもわずかな距離を走るだけだった。でもこの年、子どもたちが話し合い、史子さんもみんなと同じ距離を走ることに。どんなに遅くたっていい。勝敗を超えた優しさがそこにあった。娘の周りには「幸せな社会」が広がっていた。

中学、高校は長崎大附属特別支援学校に進学。卒業後は障害者就労支援施設に通う。「臨機応変」は難しいが「こつこつ」は得意で作業も丁寧だ。職員や友人らと楽しく過ごす日々。「行きたくない」と言い出す日は、まだ１日もない。

「大人の仲間入り」を家族も祝福する。次男（２６）は「史子と飲む」とチョコレート味のお酒をプレゼント。長男（２７）は大みそかに、史子さんが好きなアイドルグループ「嵐」の生配信ライブを視聴できるよう環境を整えてくれた。１１日には夏代さんが成人の時の振り袖を着て、髪もきれいに整え、家族写真を撮る予定。着飾った娘の姿を思い、うれしさが込み上げ、夏代さんの口から漏れた。「娘を産んでよかった」

取材中、夏代さんが席を外した時、史子さんにいくつかの質問をした。恥ずかしがり、はにかむばかりだったが、一つだけ、しっかりと答えてくれた。「家族はみんな仲良しですか」「うん。大好き」そう言うと、また恥ずかしがり、両手で顔を覆った。

生徒たちの手で、「できないことを嘆くのではなくできることを喜び合い、勝敗を超えた友情で固く結ばれる」立派な体育祭・五高祭を作り上げてくれるものと期待しています。

夏季集中学習会

３年生夏季集中学習会

第３学年主任　原口正志

８月２日（月）～６日（金）、５日間の日程で３年生は夏季集中学習会を実施しました。集中学習会に参加する生徒たちは、背中に「本物になる」とプリントされたえんじのＴシャツを着て、１２０分×５コマ１日１０時間の学習に取り組みました。オリンピック柔道男子で２連覇を達成した大野将平選手が練習中いつも心がけている「集中」・「執念」・「我慢」の言葉が前方に大きく貼り出され、過去の自分に克つための戦いが始まりました。最初、不安を感じていた生徒も、学習会が終わる頃には「時間が足りない」「もっと学習会を続けたい」という思いに変わりました。厳しくつらい学習会を生徒たちはよく頑張りました。体調を崩す生徒もほとんどなく、学習会のルールをよく守り、生徒一人ひとりの成長が感じられる機会となりました。

この学習会の成果を３つあげます。

１つ目は、長時間の学習に対する抵抗感がなくなったこと。抵抗感がなくなっただけでなく、集中して長時間の学習ができるようになりました。集中できているから、「あっという間に過ぎてしまう」のです。そしてこれからは学習のやり方と中身の工夫です。

２つ目は、生徒たちが教科の質問を数多くしたこと。質問して理解した内容は、この後も長く記憶に残ります。また、生徒が質問をしたことで、私たち教員も生徒の理解度を確認することができます。質問は双方にメリットがあるのです。

最後に。生徒は、仲間、教員、保護者の皆様方に支えられてこの学習会を成功させることができたという感謝の気持ちを持つことができました。この気持ちを元に今度は自分が社会に出たとき、人から感謝されるように高いスキルと知徳をもった人材に成長する必要があります。そのためにこそ、この受験という試練の瞬間を精一杯戦い抜くという覚悟がようやくできたようです。私たち教員も「本物になる」という生徒それぞれの夢の背中を支援していきたいと考えています。

平和学習

平和学習

令和３年８月９日、長崎の原爆の日に平和学習がリモートで行われました。今年度は、原子爆弾の被害を科学的視点から考えることで、戦争を経験したことがない私たちがどうすれば平和の尊さを伝えていけるのだろうかを考えました。今回の学習を通して、生徒たちは「原爆を学ぶ側だけでなく、教える側になりたい。」「戦争や原爆の恐ろしさを子どもがトラウマになるからと放送中止をしては、後世へ伝えられなくなる。事実から目を逸らしてはいけない。」「ゲームとはいえ、銃を持って戦うことは戦争に対する危機感が弱くなることが懸念される。規制すべきだ。」といった、新しい提案がなされました。最後に令和３年度長崎市平和宣言を視聴し、平和を尊ぶ気持ちを新たなものとしました。長崎が最後の被爆地でありますように、心から祈りを捧げます。

体育祭、五高祭について

今年度は体育祭を９月５日（日）に、五高祭を９月１２日（日）に開催する予定で準備を進めて参りましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、開催の中止・延期を含めた検討が必要となりました。検討の結果、苦渋の決断ではございますが、今年度の体育祭、五高祭は、無観客（本校の生徒及び職員のみの参加）及び昨年度以上に規模を縮小して、感染対策を講じながら開催し、開催日を９月２１日（火）にすることといたしました。本来なら、全ての保護者の皆様に御参観いただき開催すべきところですが、昨今の事情に鑑み、このような形での開催となりました。ここに御報告し、保護者の皆様には心よりお詫び申し上げます。何卒御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の更なる感染拡大やまん延防止等重点措置の適用期間が延長される等の場合は、体育祭、五高祭の中止の可能性もございます。その場合は適切な時期に判断し、御報告いたしますことを予め御了承ください。

詳細につきましては、８月２５日（水）にお子様を通じて配付した文書を御確認ください。

部活動報告

吹奏楽コンクール（吹奏楽部）

私たち吹奏楽部は、７月２４日、２５日に開催された、第６６回長崎県吹奏楽コンクールに出場しました。今年は部員１９名で、課題曲Ⅳ『エール・マーチ』と自由曲『たなばた』を演奏しました。楽器の入るタイミングや音程、音質を揃えることや、表現豊かに演奏することを中心に練習し、本番では、アルカスSASEBOの広いホールにて、力強い響きで演奏することができました。結果は銀賞で、生徒一人一人がそれぞれ自分の力を発揮できたコンクールとなりました。このコンクールで３年生が引退となり、新体制での音楽づくりが始まります。美しい五高サウンドを求め、これからも日々練習を頑張りたいと思います。たくさんの応援ありがとうございました。

総文祭（百人一首かるた部）

８月４日（水）から６日（金）にかけて和歌山県で開催された「第45回全国高等学校総合文化祭【小倉百人一首かるた部門大会】」に、本校の百人一首かるた部から２名の生徒が出場しました。

海星高校、長崎北高校、青雲高校と合同チームを組み、８名での団体戦に挑みました。新型コロナウイルス感染防止のため、声出しや声援はできませんでしたが、選手一人一人が札と向き合い、最後まで粘り強く戦いました。惜しくも予選リーグ敗退となりましたが、ハイレベルな選手と戦い、他校との交流を深め、良い刺激をもらうことができました。本大会での学びを生かし、１０月に行われる県大会（九州高等学校総合文化祭予選）に向けて練習に励みます。今後とも百人一首かるた部の応援をよろしくお願いします。